
49話 サービス

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

49話 サービス

【Nコード】

N4042K

【作者名】

吉川 明人

【あらすじ】

シヨートシヨートです。太古の文明どうしをつなぐ道の文化の跡が発見された。

これまで注目されなかった地域で次々と太古の遺跡が発見された。それはすでに見つかっている発達した文明を持つ遺跡を結ぶ中継地点に点在していた。

どこの文明にも属していなかったが、これらが共通のものである証拠に、大量の宝物箱が保存されていたことと、どの宝物箱にもラクダを表した文字が記されていたことにある。

ラクダ以外にも規則正しい文字が記され、宝物箱は厳重に管理されていたことがうかがえた。

このことから、王を中心として大きく発展していた文明の外側に、追従して発達していた豪族の文明であるという説と、大量の宝物箱があることから、中央から宝物を守り、保管するための特別な役割が与えられた種族の遺跡であるとの説に分かれた。

その後、研究が進められるほど諸説が出されたものの、真実は解明できず、腰を据えての長期的な調査が待たれることとなった。

遺跡の研究を続けるあるチームが、屋外ではできない徹底的な調査をするために許可を得て、宝物箱を施設へ運ぶための準備を進めていた。

大切な資料を万が一にも破損しないよう厳重な注意が払われ、運び出された宝物箱は精密品専門の輸送会社のコンテナへと運ばれた。

この仕事を請負い、宝物箱の補強からコンテナへの搬入を指揮した男は、ひと段落したところで、家から持ってきた自家製のコーヒを紙コップに注ぎ、もう一杯を相棒に差し出す。

「オレたちには遺跡の価値は分らないが、宝物箱は見たか？」

「ああ。ずいぶんと神経質なお荷物さまだな」

「まったくだ。それより見ていて思ったんだが、そっくりだと思わないか？」

「何がだ？」

「どれにもしつこいくらいラクダのマークが彫ってあるし、似たような文字が並んでいる。まるで時間を指定するみたいに」

「ラクダのマークの宅急便ってか！？」

「まさかな。ハハハハッ！」

各文明の中継地点に点在する遺跡の解明には、多くの専門家が頭を悩ませている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4042k/>

49話 サービス

2011年10月6日19時35分発行